

タイトル： How are you? ～かかわらないともったいない～

ファシリテーター（グループ名）： 英語チーム

メンバー：小林諒、平尾芽吹、五井晃、竹石三則
藤由菜乃花、田中葉

1：本ワークショップの要旨

あなたは見た目や価値観の違う人と出会った時、「あまり関わりたくない」と思ったことはないだろうか。現在、多様な文化と交流する機会が増えている。2020年には東京オリンピックが開催され、日本にも多くの人を訪れるだろう。これは自分の視野を広げる絶好のチャンスではないだろうか。このワークショップでは、身近な物事を出発点として「なぜ自分と馴染みのない文化を持った人と関わりたくないと思うのか」、「どうやって関わっていくか」を体験を通じて考える。将来わたしたち一人ひとりが「自分から世界に関わる大切さ」を学んでいく。

2：本ワークショップの目的(ともに考えたいこと、実現したいこと)

相互理解を目指すためには、まず相手のことを正しく知り、そして興味を持ってもらわないといけない。また、しっかりと自分の気持ちを伝えることも必要だ。本ワークショップでは、参加者とともに、実際に英語を使って活動することで、自分から世界と関わりたいと一歩勇気が出るようなワークショップを目指す。

3：本トピックをとりあげる理由

日本を訪れる外国人は年々増加し、去年は約2000万人もの人が訪れた。4年後には東京オリンピックを控えており、外国人と接する機会が多くなるだろう。そのような中で、私たちは外国人の既存のイメージにとらわれず、自分から関わる気持ちを大切にしたいと考えた。

4 : 担当の教員への要望

<事前>

- ・ 英語を取り入れる割合についての希望。
- ・ 外国出身の親族がいる児童・生徒の有無、接し方についての注意点。
- ・ 児童・生徒間での呼び方に関する注意点（～さん付けのほうがいいか）。
- ・ 英語の授業の内容、児童・生徒の反応。
- ・ 特別な注意が必要な児童・生徒の有無、接し方についての注意点。
- ・ 服装についての注意点。

<当日>

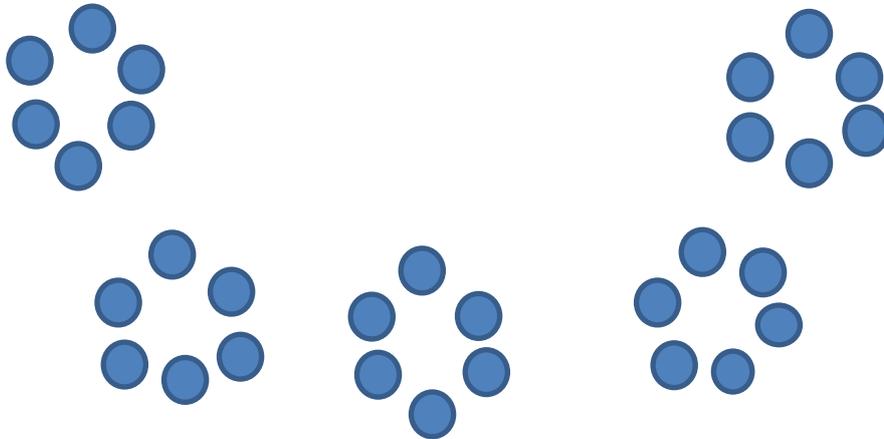
<事後>

5 : 活動過程

(使用時間 : 90分 参加人数 : 未定)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・説明・動きなど	ねらい	使用する教材・備品	注意事項
はじめに 導入 : 起 (15分)	<p>本日のねらいの確認</p> <p>あいさつ 自己紹介 (2分)</p> <p>今日の流れの確認 (1分)</p> <p>認め合いゲーム (7分)</p> <p>グループ分け (2分)</p> <p>グループ内自己紹介 (3分)</p>	<p>タイトル、ワークを参加者に伝える。</p> <p>全体で輪になって、音楽をかけながら風船を回す。</p> <p>曲が止まったら、風船を持っている人がそれを何に見えるか表現する。</p>	<p>本ワークショップの意味を共有する</p> <p>本ワークショップの流れを共有する。</p> <p>他者を認め合う。</p>	<p>パワーポイント</p> <p>風船 スピーカー</p>	

6：会場のセッティング



7：使用する教材

パワーポイント

プロジェクター

スピーカー

模造紙

ペン

A4用紙

写真

名札シール

風船

8：参考にした資料

リンダ・ランティエルほか『子どもとできる創造的な対立解決—実践ガイド—』（開発教育協会、2010年）

本名信行『世界の英語を歩く』（集英社新書、2003年）

デヴィット・J・スミス著、的場容子訳『この地球にくらす——もしも世界がひとつの村だったら』（汐文社、2008年）

金 明秀「日本における排外主義の規定要因——社会意識論のフレームを用いて」『フォーラム現代社会学』（14）（関西社会学会、2015年）36頁 - 53頁

朝日新聞 2016年1月31日朝刊『隣の外国人』

9：備考等